

第22回 一紅会主催

# 春の講演会

## 戦国時代の女性たち

～武田氏と女・子ども～

講師 長野県立歴史博物館館長

笹本 正治 氏



平成31年3月9日(土)

アルカディア市ヶ谷 3F 富士の間

武田氏の戦争において多くの女性や子どもたちが甲州に連行され、身代金を取ったり、売買されたりした事実を知るべきです。甲州の繁栄は他国の犠牲の上に成り立っていたという側面もあるのです。

講師 長野県立歴史館館長

## 笹本 正治 氏



### 【プロフィール】

1951 年山梨県生まれ

1974 年国立信州大学人文学部卒業

1977 年名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了

1977 年より名古屋大学文学部助手

1984 年より信州大学人文学部助教授

1994 年より信州大学教授。2009 年より 2015 年まで信州大学副学長

2016 年より長野県立歴史館館長。

専門は 16 世紀を中心とする日本史学。

研究テーマは、職人の歴史や災害の歴史など。

また、地域を元気にするための活動を続けている。

### 著 書

『甲信の戦国史－武田氏と山の民の興亡』(ミネルヴァ書房、2016 年 5 月)

『中世の音・近世の音－鐘の音の結ぶ世界－』(講談社学術文庫、2008 年 4 月)

『災害文化史の研究』(高志書院、2003 年 8 月)

『山に生きる－山村史の多様性を求めて－』(岩田書院、2001 年 6 月)

等を代表とする約 50 冊の本を書いている。



武田信玄旗立てのイチイ

NHKの大河ドラマに代表されるように、テレビや映画・小説などでは戦国時代が盛んに取り上げられます。特に山梨県人にとっては戦国大名の武田信玄は近しく感じられます。

小説においても新田次郎の『武田信玄』や井上靖の『風林火山』など、武田信玄は主人公です。ところで、小説などにおいて戦国の社会はどれくらい実態を伝えているのでしょうか。戦国武将を描いたものより、信玄・勝頼の時代に笛吹川沿いに生きた農民を描いた深沢七郎の『笛吹川』の方が実態を伝えているかも知れません。

## 「武田信玄旗立一位の樹」の伝説 || 戦乱を避ける

片丘南内田の大宮八幡社に、樹幹のまわり三メートル二十センチの一位の樹がある。この樹を、武田信玄旗立一位の樹と呼んでいる。

天文二十二年（一五五三年）信玄は、小笠原長時と桔梗ヶ原で戦をした。このとき、武田方の陣所は内田と赤木山陣場の峯にあり、ところどころに兵隊を配置した。それは、北は村井の富士見橋から、南は北熊井の一本杉にわたった。総大将の信玄は、高出の高日出神社と、南内田の大宮八幡社に戦勝を祈願し、両地の間を飛鳥のようにかけめぐっていた。信玄は自分の所在地を示すために、大宮八幡社（当時は大宮八幡宮と言い、南に向いていた）の正面にある一位の樹に旗をたてた。

内田・小池・赤木の住民は、武田軍のために家を荒らされ、食べ物を持って行かれたので、大沢平（欠の湯の東方約五百メートル）のあたりに小屋を作り、老人・子ども・女をかくしておき、血気はやる若者たちは豊後山（欠の湯の南方五百メートルくらい）左手の坂に人員をまとめて陣を作って、武田軍が来たならば一戦をまじえようと準備していた。

武田と小笠原の戦いは五月七日卯の刻（午前六時頃）に始まり、巳の刻（午前十時頃）には、小笠原軍の大敗で、戦も止んだ。信玄は戦いに勝ったので、御礼として大宮八幡社に弓と箭を奉納したという。現在もその弓と箭はお宮に残されている（『塩尻の伝説と民話』八一頁）。

今回の講演で特に主張したいのは戦国時代が人身売買の時代であり、多くの奴隷を産み出したのが戦争であったということです。特に女性たちは戦乱の中で拉致され、商品として売られました。

武田氏の戦争において多くの女性や子どもたちが甲州に連行され、身代金を取ったり、売買されたりした事実を知るべきです。甲州の繁栄は他国の犠牲の上に成り立っていたという側面もあるのです。



『大坂夏の陣図屏風』若い娘を取り囲む雑兵



『大坂夏の陣図屏風』より逃げ惑う女・子供

## 拉致される女子供

—商品としての女性と子供—

天文一五年（一五四六）

この年信州佐久郡志賀殿城を甲州の人数・信州の人数、ことごとく談合成られ候て、取りかけられめされ候、去る程に志賀殿も随分の兵共をお持ち候、また常州のもろ親にて御座候高田方、志賀殿を見継ぎ候て、浅間嶽の廻りに御陣を取り候、去る程にそれを目がけ候て、板垣駿河守殿・甘利備前守殿・横田備中守殿・多田野三八殿、その外打ち向かい軍なされ候、去る程に常州人数切り負け候て、名大将十四、五人打ち取り、雑人三千ばかり打ち取り、この首を志賀城の廻りにことごとく御懸け候、これを見て要害の人数力を失い申し候、去る程に城は水につまりて、常州人数と合戦は八月六日、志賀要害は八月十一日依田一門・高田一族、志賀殿御内は家老平六左衛門尉、兄弟八人、去る間以上打ち死に三百ばかり、志賀殿御上をば小山田羽州給いて駒橋へ御同心申し候、去る程男女生け取り成られ候て、ことごとく甲州へ引越し申し候、去る程に二貫、三貫、五貫、十貫にても親類ある人は承け申し候（『勝山記』）

戦争があると人々は自分の身を守るために山奥に逃げ込んだりしていました。安全を確保することは当時の人々にとって最大の課題だったのです。

戦国時代に同じ日本人同士が戦わねばならなかった理由の一端には、季候異常による食糧難がありました。他人の物を奪ってでも生きていかねばならなかったのです。

そんな厳しい時代にも女性は生き生きとしていました。武田信玄の母親の大井夫人は信玄の行動にも影響を与えたようです。勝頼の祖母は判子を押した文書を出しています。



【武田勝頼祖母書状 所有：池上家（伊那市長谷）】

此とし月むそくにてほうこう申により、御屋形さまへ御わひ事被申、五くわん文の所申こいくたされ候、いよいよゆたんなくほうこうあ「りようしよを□、あとへミまさか・おはらた□」おほせつけ、れん□にてくたされ候、いよいよ御上へさまへ御ほうこう候へく候、御さうしさまへも、すへすへまでも、あんおんのむね「しん「心やすくそんし「いつかた「候ハ、御印判をさきとして、れうしよのれんはんこのかき物をもつて申へく候、五日のため、つちのへとら（朱印・印文未詳）十月吉 せいさへも□

- ・これまで清左衛門は無給で仕えていた
- ・この文書を出した人は勝頼に直接連絡を取れる
- ・書いた人は女性 女性がハンコを持っていた

大井夫人は人質のような形で信虎と結婚しました。現在でも女性が結婚を取り持つことが多いようですが、戦国時代にも「すあい」と呼ばれる女性たちが男女の間を取り持ったり、仲買人のような商売をしていました。



## 中世の民衆と女性

「すあい」と呼ばれる女性を中心とする仲買商人

漢字では牙儂、牙因、才取、牙婆、女商、牙因女

『七十一番職人歌合』 = すあいが女の姿

『日葡辞書』 = 「スワイ（牙儂） 買手と売手との間に立つ仲買人の職。例、（牙儂をする）この仲買人の仕事をする。また、この職から取れる口銭や利得。例、（牙儂を取る）商人たちの間で仲介の口銭や利益を取る」

寛文6年（1666）版の『訓蒙図彙』 = 「牙婆 今按すあひ 女儂 同」

『諸言字考節用集』 = 「牙婆 スアイ 又云女儂」

平安中期ころにできた『宇津保物語』では、男女の間を取り持つ女性が「中媒」

12世紀にできた『色葉字類抄』 = 「中媒婚姻分 チウバイ」、男女の仲を取り持つ意味で「中媒」

世界どの国に行っても市場などでは女性が活躍しています。日本でも商業の場には多くの女性がいます。戦国時代においても商売では女性が活躍していました。また、職人としても多くの職種で女性が働いていました。



戦国時代に日本へ来たヨーロッパ人は、「ヨーロッパでは財産は夫婦の間で共有である。日本では各人が自分の分を所有している。時には妻が夫に高利で貸し付ける」と評しています。

今でも女性のへそくりは女性のものであり、家族の財産ではありませんが、戦国時代も同様だったようです。



### お酒と女性

『七十一番職人歌合』酒作が女性＝酒売りに女性が多い  
狂言の『連雀』

新市を開設する高札を立てると、一人住まいの酒を売る  
女性が一の店を持とうと夜に家を出て一の店に着く  
後から商人がきて、自分が先に一の店についたと主張し、  
両人が争う

目代が来て裁こうとするが、らちがあかず、脛押しや相  
撲をして女が勝つ

酒造りに携わる職人を杜＝家を司る独立した女性を意味  
する刀自の語に由来

いつの時代でも女性は輝いていました。一方で力を持たない女性たちが虐げられてきたことも事実です。とりわけ戦乱の時代に最も悲惨な思いをしたのは女性と子供です。昨年のノーベル平和賞はコンゴの産婦人科医デニ・ムクウェゲ氏とイラク北部出身の人権活動家ナディア・ムラド氏が受賞しました。受賞理由は戦争や武力紛争の武器として性暴力を撲滅するための努力です。現代でも紛争は続き、悲惨な状態に置かれている女性が沢山います。

女性が真に輝ける時代は性差や身分差などがなく、平和な社会が実現されたときです。日本の戦国時代を美化してはなりません。戦国のロマンを語るよりも戦争の無い時代に、戦国で無い時代をつくることに、お互いに夢を持つようにしていこうではありませんか。

### 働き方改革は女性を解放しているのか 収入と家事・育児

男性だけの収入では家庭のやりくりも子供の教育もできない  
ボロボロに働かされる現代  
金銭と時間に支配されている今  
これだけ上下関係・貧富の差がある社会  
江戸時代以上に身分社会

女性が真に輝ける時代は平等な社会  
お互いが思いやりをもって動く時代  
子供が安心して育つ社会  
人間は何をもって幸せというのか

### →戦争の無い時代に、戦国で無い時代にする

世界どの国に行っても市場などでは女性が活躍している。細かな文書には多くの女性がいます。戦国時代においても商売では女性が出たり自給自足もまた、職人としても多くの職種で女性が働いていました。

アホさげの職人さ大昔文のさ大昔文はクア一、大JまのAの職お昔文よア升朝のてい、ケ増干る昔文おのさJまの思お昔文よ景の升朝の語牌はけりさ。セケ実事よるこさき

# Memo



山梨縣立甲府中學校 校歌

- 一、我等は日本に生れたり  
神の御代より一系の  
皇統戴く我国に  
生れしことのうれしさよ  
皇国の栄えは天地と  
共に窮りなかるべし
- 二、大和島根に山めぐる  
甲斐の国あり水清き  
郷土の歴史顧みよ  
我等の務め軽からず  
見よや南に富士ヶ嶺は  
皇国の鎮めと聳えたり
- 三、大海原の揺りやまぬ  
波をも風をも凌ぎつつ  
護れ皇国を諸共に  
国民挙り国のため  
撓まず萎縮まず辞易がず  
進むぞ大和ごころなる



山梨県立甲府第一高等学校校歌

- 一、甲斐の国 み中に建ちて  
古へゆ 雄心伝へ  
新しき 世の鑑とし  
勉めてむ この学舎に
- 二、日に新た また日に新た  
弥高き のぞみをもちて  
真なる理究め  
励みなむ 若人我等
- 三、聳え立つ 芙蓉の高根  
清き哉 甲斐の山川  
もろともに 玉と磨きて  
賛くべし 天地の化育